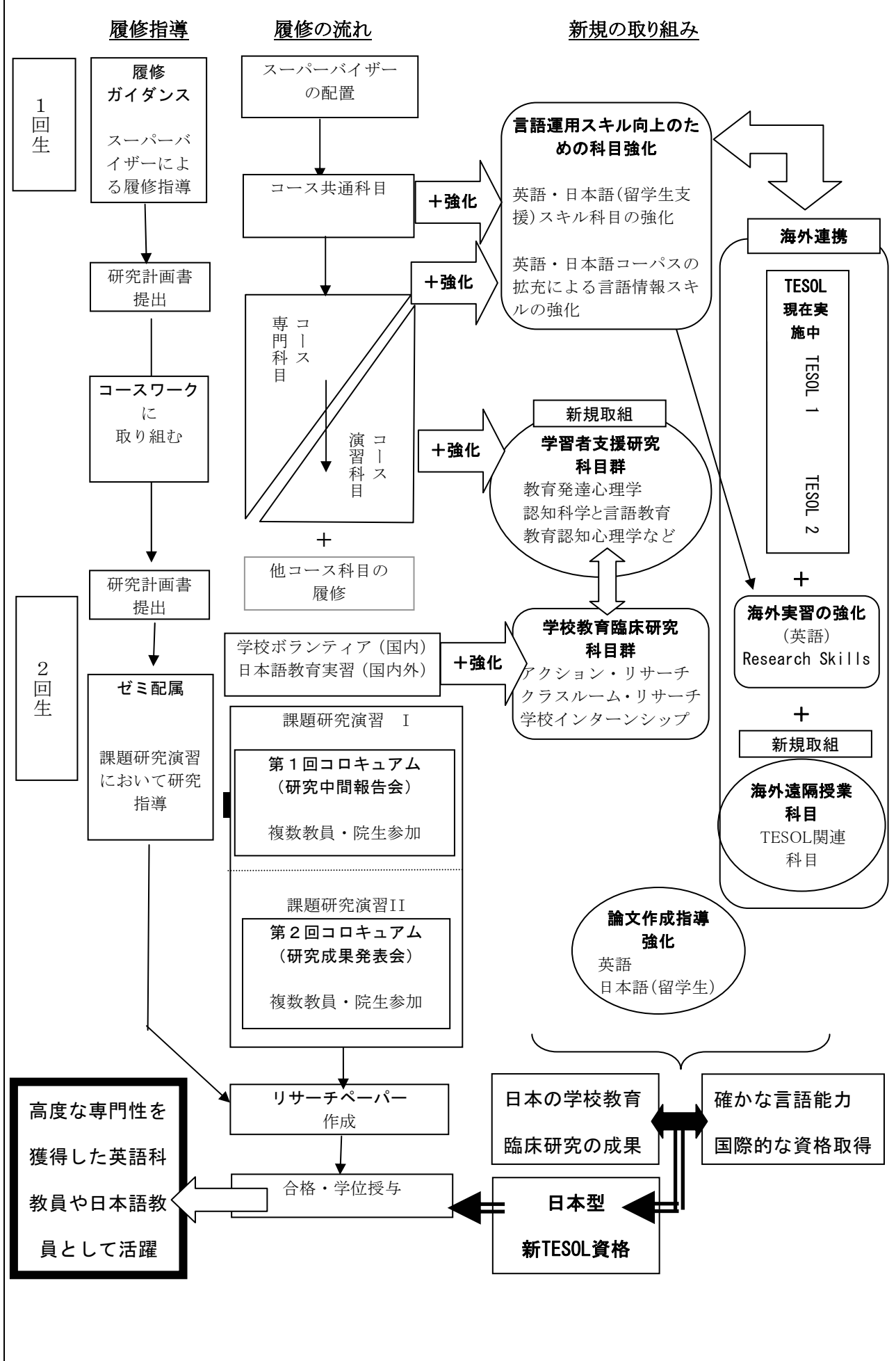


## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	立命館大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	国際通用性を高めた言語教育専門家の養成		
主たる研究科・専攻名	言語教育情報研究科言語教育情報専攻		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 松田 憲		
<p><b>[教育プログラムの概要]</b></p> <p><b>【研究科の人材養成の目的と教育プログラムのねらい】</b> 本研究科の人材養成の目的は、言語コミュニケーション能力、言語情報処理能力、言語教育能力といった実践的な知識と技能を基盤にして、英語教員や日本語教員、また「ことば」の社会的な機能の研究やコーパス利用による分析を将来のキャリアに生かせる高度専門職を養成することに置いている。こうした研究科の人材養成の目標を達成するため、<u>本研究科はコース共通科目を中心に、他のコース専門科目も含めて、科目履修の柔軟性と系統性をともに満たすための工夫を行ってきた。</u> 今回申請する教育プログラムは、こうした本研究科の基本コンセプトである、<u>言語教育に言語情報分野の知識やスキルを統合して学べる柔軟な履修構造を更に推し進めるとともに、海外大学におけるプログラム履修や教育実習受講と日本の学校教育現場を研究対象とする学校教育臨床研究を連携することにより、言語教育専門家養成における国際通用性と日本の学校教育現場での応用性とを結合させた、いわば日本型国際的言語教員資格認定をめざすものである。</u> 具体的には、英語教育分野ですでに実施している北米型のTESOL資格取得プログラムを、日本の学校教育臨床研究と組み合わせることにより、学生の英語教育分野における国際水準に見合った専門力量を高めるとともに、日本の英語教育現場でも即戦力となる実践的なプロフェッショナル育成のための<u>教育課程の一層の組織化と強化を重点にした。</u></p> <p><b>【教育プログラムの要点】</b></p> <p>(1) 言語教育専門家としての<u>国際的通用性の一層の向上および英語による科学的リサーチの手法の修得のため、英語教育学分野において、現在カナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)と共同開発・実施しているTESOL資格(サーティフィケート)取得プログラムを拡充して、一層多くの英語教育学プログラムの学生が履修できる科目を設定。</u> 学生が夏季集中講義を利用して、UBCキャンパスにおいて、<u>言語教育学分野のリサーチ・スキル系の科目を履修し、また遠隔双方向授業システムを活用してUBCなど海外からの発信による科目履修ができるシステムを大学院教育に組み込む</u>など、国際化対応のカリキュラムの強化を行う。</p> <p>(2) TESOLなど海外プログラムの履修だけでは不十分な、<u>日本の学校教育現場の諸課題の把握と実践的な解決方法の臨床的な研究</u>を今次の教育プログラムの重要な構成要素とする。①教師が日本の教育実践現場である教室で出会う色々な困難に対し、データの収集と分析を通じてその原因のありかをつきとめ、「問題発見解決」に至る「アクション・リサーチ」や「クラスルーム・リサーチ」など、学校教育臨床研究に対応する科目群を整備して「<u>学校教育臨床研究</u>」科目群としてカテゴリー化する、②教育をめぐる問題事象、病理現象について、理論的にも実践的にも深くとらえて、言語教育の学校現場での対応に生かすために、「<u>教育発達心理学特論</u>」「<u>教育認知心理学</u>」「<u>認知科学と言語教育</u>」を新規に加えて、「<u>学習者支援研究</u>」科目群として系統的な履修指導に組み込む。</p> <p>(3) 言語教育専門家としての専門力量形成に不可欠な、<u>言語運用能力および言語情報処理の知識や技能を一層高めるため新たな取り組みを行う。</u> 具体的には、学生が自律的問題解決の重要なツールとして<u>コーパスの扱いに一層習熟し、現場で遭遇する語学的な疑問を自ら解決できる力を強化するため、英語、日本語のコーパスの利用と教育環境の拡充をはかる。</u> また、大学院学生のリサーチペーパーを英文で作成し、国際学会で発表したり国際的な学会誌に寄稿したりすることを一層支援するための<u>英語ライティング・プレゼンテーション、国内外から受け入れている留学生が日本語での積極的な討議参加や研究報告、論文執筆をサポートする日本語ライティング・プレゼンテーションのための支援の体制確立と科目の拡充をはかる。</u></p> <p>(4) 上記の(1)～(3)の新たな取り組みにより、言語教育における国際的な通用性を日本の学校教育現場の臨床研究と結合させて、目的とする高度専門職としての言語教育専門家の人材養成をはたす。</p>			

立命館大学：国際通用性を高めた言語教育専門家の養成

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、日本の学校教育臨床研究とTESOL（英語教授法）資格取得プログラムを組み合わせ、英語教育分野における国際水準の専門性と日本の英語教育現場で即戦力となる実践的なプロフェッショナル育成を目指し、教育課程の一層の組織化と強化が図られている点は評価できる。また、「日本語ライティング」を重視しているのはまさにタイムリーである。

教育プログラムについては、人材養成目的を具現化するため、ブリティッシュ・コロンビア大学（UBC・カナダ）との連携によるリサーチ・スキル系科目や学校現場におけるインターンシップの導入を含む、学校教育臨床研究科目の設置など、実質的な効果が期待されるが、言語教育という観点から、他分野との連携なども含め、より広い視点からカリキュラムを工夫することなどが望まれる。